

以地名爲名

舟行非取急、而故二三之數、櫓借下徒、鬪豪華、院本吉原雀曰、二挺建、三挺建、都俗數櫓以挺前日可證、
〔和漢船用集五〕舟名數江湖川船柏原船。處名を呼、河州柏原の舟也、劔先舟に似て上棚あり、立戸立
なり、是又淺川を行、攝州より河州へ往來の舟、

〔和漢船用集四〕舟名數海船堺船。泉州堺の船也、長崎への通船、糸物、絹布、藥種類、總じて唐物を積の
船也、

〔和漢船用集四〕舟名數海船難波船。攝州の名所を呼者、中今廻船、荷舟、檣垣等、大坂舟と稱す、

〔令集解三十〕營凡官私船、略。每年具題色目勝受斛斗破除見在任不、中略古記云、中略目謂船類、
〔夫木和歌抄三十三〕船後法性寺入道關白家百首遇不逢戀

なには舟

皇太后宮大夫俊成卿

あしわけのほどこそあらめ難波舟おきにいで、もこぎあはじとや

〔和漢船用集四〕舟名數海船琴浦舟。同國、津攝名所を呼者、武庫郡尼崎、西宮との間にあり、

〔和漢船用集四〕舟名數海船灘舟。同國、津攝名所を呼者、尼崎と兵庫の間にあり、灘浦、於此浦多燒鹽
といへり、

〔和漢船用集五〕舟名數江湖川船大和田船。同國、津攝名所を呼者、小船にて、舟側をすぐに通して水
押に作り、上柵を戸立の外へ出し、横軸なり、耕作舟、通舟に用、大和田作りと云、

〔和漢船用集三〕舟名數海船伊勢船。藻鹽草に、いせ舟ををの、湊江によめりといへり、又伊勢舟の
名、舟法要略に見へたり、伊勢の國名を呼者にして、本邦古昔の舟也、故に俗親舟と呼、又鱸の形、つ

ねの水押にて、もき先なく箱置なり、この故に表箱造りにするを、吾妻表と云、水押の形、二ツある
ゆへ、二形ともいへり、又別の制二形と云あり、

〔新撰六帖三〕江